

輸精管切断によるオオクチバス *Micropterus salmoides* 雄親魚の避妊化方法

関 慎介

◆背景・目的

現在、滋賀県では外来魚を対象とした駆除事業が行われている。その結果、外来魚（オオクチバス・ブルーギル）の生息量は、減少傾向にある。しかし、捕獲だけに依存した駆除では、外来魚の撲滅は困難であると考えられる。そこで、捕獲とは異なる駆除方法の一つとしてオオクチバスを対象とした、オス親魚の避妊化を検討している。

◆成果の内容・特徴

- 平成 16 年度に避妊化の施術をおこなった供試魚の一部を開腹し、その輸精管の切断状況を確認した。その結果、一部の供試魚には輸精管部分に損傷は見られるものの、完全に切断されてないものがあった。
- 平成 17 年度は、平成 16 年度に行った、輸精管部位を引き出して切断する方法（方法①）に加え、方法①の切断箇所を大きくした方法（方法②）の二通りを検討した。
- その結果、方法①では、75% の割合でオス親魚の避妊化に成功できた。一方、方法②では、88.8% の割合でオス親魚を避妊化することができた。

◆成果の活用・留意点

- 方法①と比較し、方法②では避妊化成功率が 88.8% と高い結果であったが、すべてのオス親魚を避妊化することができなかった。そこで、今後、全てのオス親魚を避妊化することができる方法の開発が必要になる。

